



エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは公益財団法人日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料ならびに商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2016.6.1 No.98

「エコマークアワード2015」表彰式、ならびに2015年度「エコマークフォーラム」を開催しました



「エコマークアワード2015」受賞者による記念撮影

目次・CONTENTS

特別報告

- 「エコマークアワード2015」表彰式 2
- 2015年度「エコマークフォーラム」 3

認定基準に関するお知らせ

- 認定基準の制定、改定 4
- エコマーク商品類型の有効期限の延長 5
- 2016年度以降に取り組む新規商品類型の選定結果 6

委員会報告

- 運営委員会、基準審議委員会 6

新認定商品のご紹介

- 相互認証によるブルーエンジェル認定取得 6

トピックス

- GEN役員会出席、日中韓相互認証 7
- 環境関連イベントへの参加 8

特 別 報 告

●「エコマークアワード 2015」表彰式

2016年2月24日、「エコマークアワード 2015」の表彰式を行いました。今回が6回目となるエコマークアワードには、下記の7団体および1商品が選ばれました。受賞団体の皆様、おめでとうございます。各賞の受賞理由は、エコマーク事務局ウェブサイト (<http://www.ecomark.jp/award/2015/>) をご参照ください。



**金賞 サラヤ株式会社・
東京サラヤ株式会社**

洗剤の詰め替え容器で、25年間エコマーク取得！～詰め替えパックの継続採用と環境負荷低減の取り組み



銀賞 株式会社オオハシ
プラスチック製敷板「リピーボード」



銀賞 昭和電工株式会社
プラスチック製容器包装のリサイクルによるアンモニア製造プロセス



銅賞 川上産業株式会社
∞プチ



銅賞 株式会社関東
歯ブラシを丸ごと捨てる時代は終わりました エコ歯ブラシ「セグエ」



銅賞 株式会社PFU
イメージスキャナ ScanSnapシリーズ、fiシリーズの普及・活用推進による環境負荷低減の取り組み



銅賞 株式会社山下工芸
自然で自然を支える箸プロジェクト



プロダクト・オブ・ザ・イヤー
太陽熱利用ガスふろ給湯暖房システム
XFシリーズ
株式会社ノーリツ
[エコマーク認定番号：14 154 001]



「エコマークアワード 2015」選考委員長
西尾チヅル氏による講評の様子

● 2015 年度「エコマークフォーラム」

「エコマークアワード 2015」表彰式後、消費者、事業者等のステークホルダーが集うコミュニケーションの場として、「エコマークフォーラム」を開催しました。本イベントでは、「エコマークアワード 2015」受賞団体による受賞事例の紹介に続いて、コミュニケーション手段としてのエコマークの役割をテーマに事業者（企業）とエコマーク事務局によるパネルディスカッションを行いました。

■ 受賞団体による受賞事例の紹介

「エコマークアワード 2015」の各受賞団体より、受賞理由となった取り組みについて発表が行われました。

受賞事例発表の様子
(サラヤ株式会社・東京サラヤ株式会社)



■ パネルディスカッション

「BtoB、BtoCに向けたコミュニケーション手段としてのエコマークの役割と課題」

エコマークアワード選考委員長である筑波大学大学院教授 西尾チヅル氏をコーディネータに迎え、「エコマークアワード 2015」受賞団体を代表して金賞、銀賞、プロダクト・オブ・ザ・イヤーを受賞された4社、そしてエコマーク事務局を交え、コミュニケーション手段としてのエコマークの役割について議論しました。

はじめに、「エコマークアワード 2015」受賞団体のパネリストより、エコマーク認定を取得した理由を紹介いただきました。主な理由として、顧客からの要望があった、自社の取り組みを広めるためにエコマークを活用した、他社の同等製品との差別化に役立った、等の例が紹介されました。

続いて、エコマーク認定商品の環境パフォーマンスを数値としてまとめた、エコマーク認定商品のCO₂削減効果の調査結果について、エコマーク事務局より報告しました（報告の資料はエコマーク事務局ウェブサイトに掲載しております）。

さらに、今後エコマークに期待することや現在の課題について意見をいただきました。エコマーク認定によるインセンティブや何らかのメリットを期待する声が多く聞かれ、具体的には、国や自治体からの補助金や入札時の優先的な選定等があるとよい、といった内容でした。また、消費者が何を求めているかをしっかりと把握し対応していくことが重要であり、再生材料を使用している商品の原料調達先のトレースや、地域の環境への配慮など、エシカル（倫理）面もしっかり見てほしいという意見もありました。

最後にコーディネータの西尾氏から、企業は環境負荷低減や環境保全のためのイノベーションに対する努力がきちんと評価され、インセンティブにつながることを期待していること、また、タイプI環境ラベルのエコマークであれば、エシカルの側面にしっかりと配慮し、新しい社会的な動きにも参画することが望ましい、というまとめのコメントをいただきました。多面的な意見により、エコマークの役割と課題が確認されたパネルディスカッションとなりました。

◆ 受賞団体によるプレゼンテーション資料は、エコマーク事務局ウェブサイトにてご覧いただけます。

(<http://www.ecomark.jp/info/forum/2015.html>)



パネルディスカッションの様子

■ エコマーク 2015 年度年次活動報告

プログラムの最後には、エコマーク事務局長 宇野治より 2015 年度の活動報告を行いました。

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
130	家具 Version 2（新 Version）	2016 年 6 月 1 日	2023 年 5 月 31 日
140	詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1.9 分類 G. 再生プラスチックを使用したプラスチック製容器包装 分類 H. 植物由来プラスチックを使用したプラスチック製容器包装		2022 年 6 月 30 日
128	日用品 Version 1.18		2020 年 6 月 30 日
143	靴・履物 Version 1.5		2020 年 11 月 30 日

◆認定基準は（<http://www.ecomark.jp/nintei/>）をご覧ください。

■ No.130「家具 Version 2」（見直し）

最新の市場動向および環境規制などを踏まえ、シックハウス対策関連などの既存の認定基準を見直し、Version 2 として制定しました。

■ No.140「詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1.9」（適用範囲の拡大）

- 分類 G. 再生プラスチックを使用したプラスチック製容器包装
再生材料を使用したラミネート包装材や植物由来プラスチックを採用した容器包装をはじめ、新たな素材や技術について総合的に検討し、容器包装の適用範囲を拡大しました。
- 分類 H. 植物由来プラスチックを使用したプラスチック製容器包装

■ No.128「日用品 Version 1.18」、No.143「靴・履物 Version 1.5」（適用範囲の拡大）

植物由来プラスチックの取扱い方針として、エコマーク事務局が 2015 年 4 月にとりまとめた「エコマーク認定基準における植物由来プラスチックの取扱い」に基づき、「日用品」および「靴・履物」認定基準に植物由来プラスチック、植物由来合成繊維の基準項目を追加しました。併せて、繊維製品の新基準に合わせた基準の修正、革材料のアゾ系染料に関する基準について「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」の改正に対応した改定を行いました。

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定を行いましたので、お知らせいたします。（Version の No. は改定前のもの）

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日
101	かばん・スーツケース Version 1.6	・ 関連法規の改正に対応した改定 ・ 発癌性芳香族アミンに関する証明方法の変更	2016 年 4 月 1 日
144	革製衣料品・手袋・ベルト Version 1.4		
103	衣服 Version 3.1	グリーン購入法「判断の基準」との整合	
104	家庭用繊維製品 Version 3.1		
105	工業用繊維製品 Version 3.0		

（次ページに続く）

類型番号	商品類型名	改定のポイント	改定日
136	リユース製品 Version 1.6	適用範囲の変更 (電動ファン付き呼吸用保護具用リユースろ過材の追加)	2016 年 4 月 1 日
132	トナーカートリッジ Version 2.0	大判機の基準値の追加	
142	インクカートリッジ Version 2.0		
155	複写機・プリンタなどの画像機器 Version 1.0	・大判機の基準値の追加 ・TVOC、騒音に関する試験方法の補足、修正 ・インク容器の取り扱いの明確化	

◆改定点の詳細については (http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/) をご覧ください。

エコマーク商品類型（認定基準）の有効期限の延長

2017年3月までに有効期限を迎える商品類型について、ガイドラインに従って見直しを行った結果、下記の商品類型の有効期限を延長することが決定しまし

た。なお、関係者と協議の上、必要に応じて新 Version 認定基準の策定や部分改定を順次進める予定です。

類型番号	商品類型名	新・有効期限
101	かばん・スーツケース Version 1	2022年 8月 31日
120	紙製の印刷物 Version 2	2022年 8月 31日
121	リターナブル容器・包装資材 Version 2	2022年 6月 30日
123	建築製品（内装工事関係用資材） Version 2	2022年 12月 31日
124	ガラス製品 Version 2	2022年 4月 30日
126	塗料 Version 2	2022年 4月 30日
137	建築製品（外装・外構工事関係用資材） Version 1	2022年 12月 31日
138	建築製品（材料系の資材） Version 1	2022年 12月 31日
139	建築製品（設備） Version 1	2022年 12月 31日
140	詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1	2022年 6月 30日
141	生分解性プラスチック製品 Version 1	2022年 6月 30日
144	革製衣料品・手袋・ベルト Version 1	2022年 6月 30日
145	プロジェクタ Version 1	2020年 6月 30日
146	まほうびん Version 1	2022年 8月 31日
147	損害保険 Version 1	2022年 11月 30日

2016 年度以降に取り組む新規商品類型の選定結果について

2016 年度以降に取り組む新規商品類型について、昨年 10 月の 1 カ月間に提案募集を行いました。寄せられた提案ならびに事務局からの提案を踏まえ、エコマーク企画戦略委員会で審議した結果、右記の案件を、2016 年度以降に着手する新規商品類型として選定、または新規商品類型化の候補としてさらに継続検討することとなりました。

新規商品類型として選定された「飲食店」(仮称)について、認定基準策定に関する意見、ならびに認定基準案を策定する委員候補を募集しました(募集は終了

しました)。今後、基準策定委員会にて基準案を検討します。

●新規商品類型として選定する案件

- ・飲食店 (仮称)
- ・シュレッダー (仮称)
- ・バイオディーゼル燃料 (仮称)

●新規商品類型化の候補として継続検討する案件

- ・グリーン購入法 特定調達品目に係るサービス分野
- ・宿泊プラン

委員会報告

運営委員会 (第 36 回)

第 36 回運営委員会が 2016 年 3 月 9 日に開催されました。議事内容は以下のとおりです。

〈議事内容〉

1. 2015 年度 (平成 27 年度) エコマーク事業報告

2. 2016 年度 (平成 28 年度) エコマーク事業計画および予算 (案) について

◆資料等詳細は (http://www.ecomark.jp/office/organization/steering_data/) をご覧ください。

基準審議委員会 (第 20 回)

第 20 回基準審議委員会が 2016 年 3 月 20 日に開催されました。審議事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型 (認定基準) 案について

2. エコマーク商品類型 (認定基準) の部分的な改定について

◆審議事項および資料等詳細は、(http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/) をご覧ください。

新 認定商品のご紹介

エコマーク認定プリンタが初めて相互認証を活用してドイツ・ブルーエンジェルの認定を取得

エコマークは、ブルーエンジェルとの間で「画像機器 (複写機、プリンタ)」分野の相互認証協定を締結しています。このたび、エコマークの認定を取得したプリンタ【理想科学工業株式会社 商品ブランド名: ORPHIS FW (エコマーク認定番号: 15 155 054)】が、初めて同協定を活用しブルーエンジェルの認定を取得しました【会社名: RISO (Deutschland) GmbH モデル名: ComColor FW5230, ComColor FW 5231】。

エコマークとドイツ・ブルーエンジェルとの間の相互認証は、一方のラベルの認定を受けている場合、そ

相互認証を活用しドイツ・ブルーエンジェルの認定を取得した理想科学工業(株)のプリンタ



の審査結果をもう一方のラベル機関の審査に援用することができる制度です。今回、ブルーエンジェルの認定を受けたエコマーク認定事業者は、相互認証を活用したことで証明試験等のコストや事務作業の削減、申

込／審査期間の短縮を実現し、円滑にブルーエンジェルの認定を取得することができました。今後、日本の複写機、プリンタ事業者による相互認証のさらなる活用が期待されます。

トピックス

GEN 役員会に出席しました

2016年4月21日、22日の2日間、アメリカ・サンフランシスコにて開催された世界エコラベリング・ネットワーク（Global Ecolabelling Network、以下 GEN）の春季役員会に出席しました。2015年のGEN会計報告を中心に、2016年以降のGENおよびタイプ I 環境ラベルのさらなる発展について活発な議論が行われました。

〈世界エコラベリング・ネットワーク（GEN）とは〉

タイプ I 環境ラベルの運営機関の世界的なネットワーク組織。昨年新たにインド・Confederation of Indian Industry とドイツ・TÜV Rheinland が加盟し、現在29団体で構成される。会員相互の情報交換、連携を図り、エコラベルの国際的な普及を目指している。エコマーク事務局は、GENが設立された1994年から発起団体の一つとして加盟しており、会計責任者・総務事務局として運営に関わっている。



GEN 役員会の参加メンバー

※GENのウェブサイトが新しくなりました。

(<http://www.globalecolabelling.net/>)

日中韓3カ国の相互認証の対象に「塗料」、「文具」が加わりました

2016年4月25日、26日、静岡市にて第2回日中韓環境ビジネス円卓会議が開催されました。3カ国間の環境ビジネスの交流を目的に、日中韓環境大臣会合に併せて開催された本会議にて、日中韓環境ラベル間の

「塗料」および「文具」の共通基準の合意書が締結されました。この合意により、「塗料」および「文具」においても3カ国間での相互認証を活用いただけることになりました。

日中韓の環境ラベル機関は、3カ国の環境ラベル基準の調和化を推進しており、今回の「塗料」および「文具」の分野での相互認証協定締結により、相互認証の対象が7分野に拡大しました。これらの成果として、日韓間においては、2016年2月末時点で345機種が相互認証の仕組みを利用して韓国環境ラベルを取得するなど、着実に活用実績があがっています。

今回の「塗料」および「文具」は、2015年4月に相互認証の対象品目として選定され、2016年3月の実務者会議で、揮発性有機化合物や有害物質の使用制限、および包装材料等の基準において3カ国の共通基準項目が合意されました。



相互認証の調印式の様子

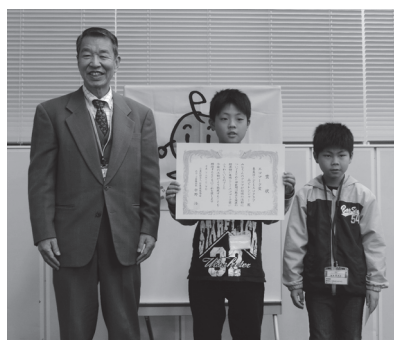
こどもエコクラブ全国フェスティバルに参加しました

エコマークは、2016年3月20日に早稲田大学理工学部キャンパスにて開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加しました。全国フェスティバルは、自主的な環境活動を行っているこどもエコクラブのうち、活動をまとめた壁新聞をもとに選ばれた全国47都道府県の代表クラブが集い交流を深める年に一度の大きなイベントです。表彰式では、壁新聞部門の特別賞「エコマーク賞」を受賞した高知県「香美市こどもエコクラブ みどレンジャー」に、エコマーク事務局より表彰状が授与されました。

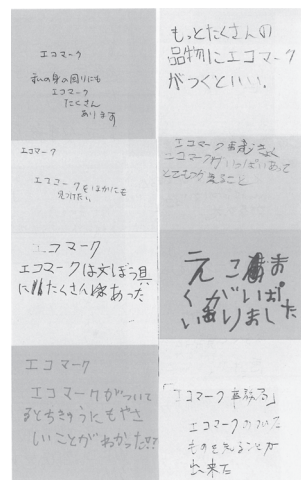
活動発表や表彰のほか、企業・団体が環境への取り組みを紹介するブース展示も行われ、エコマーク事務局ブースではエコマーク認定商品を展示し、全国の子どもたちに紹介しました。展示を見た子どもたちからは、想いのこもった感想やメッセージをたくさんい

いただきました。

企業の展示コーナーには、エコマーク認定商品保有企業の株式会社イトーキ、株式会社エフピコ、文化シヤッター株式会社、三井住友海上火災保険株式会社も出展されました。



(上)「エコマーク賞」受賞クラブの記念撮影



(右) 子どもたちからのメッセージ

エコマークパネル展、エコマークセミナーが開催されました

2016年5月1日から25日にかけて、東京都中央区立環境情報センターで開催されたエコマークパネル展

において、「エコマークのここがすごい！」を紹介したパネルの掲示と関連の認定商品の展示を行いました。



エコマークパネル展の様子



エコマークセミナーの様子

また、パネル展示期間中の5月13日にはエコマークセミナーが開催されました。エコマーク事務局スタッフより、エコマーク認定商品のCO₂削減効果の調査結果報告と、海外のタイプI環境ラベルとエコマークとの相互認証の状況紹介を、それぞれ行いました。

【エコマーク事務局からのお知らせ】

■ エコライフ・フェアに出展します

2016年6月4日、5日に東京・代々木公園にて開催される「エコライフ・フェア2016」に出展します。

エコマークニュース 第98号 2016年6月1日発行

編集・発行／公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F

TEL: 基準・認証課 03-5643-6253 FAX: 03-5643-6257 (各課共通)

総務・契約監査課 03-5643-6255

普及・国際協力課 03-5643-6255

Homepage: <http://www.ecomark.jp>

E-mail: info@ecomark.jp



エコマークは(公財)日本環境協会の登録商標です。